

平成15・16年度 「帰国・外国人と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

都道府県名：茨城県

市区町村名：神栖町

研究主題 個に応じ、一人一人の夢をはぐくむ指導の在り方
- 外国人児童生徒への支援と「教育の国際化」を通して -

(趣旨) 外国人児童生徒が多いという地域の特長を生かし、共生の理念のもとすべての児童生徒が将来に夢と希望を持って学びあっている「やさしい学校」づくりを目指し、外国人児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の在り方を実践的に研究する。具体の目標は以下のとおり。

推進地域として(教育委員会を中心にして)

- ・外国人児童生徒の実態を把握し、未就学児(幼稚園等の外国人幼児)への支援を充実させ、未就学・不就学の児童生徒の解消に努める。
- ・外国人児童生徒一人一人の実態に応じた適切な支援・指導を目指し、各学校への日本語指導員派遣等の支援体制を充実するとともに、日本語指導に係る研修の充実を図る。

各学校等(センター校を中心にして)

- ・「教育の国際化」という考えをもとにして、通常の学級における外国人児童生徒等が安心して学べる支援のしかたを研究する。
- ・異文化にある子ども同士が相互啓発し「違いをプラス」にする国際理解教育の在り方を実践的に研究する。
- ・外国人児童生徒等への有効な教科補充学習等を充実させ、将来に夢と希望がもてる学習支援の在り方を実践的に研究する。

国際化推進地域の概要

1. 平成16年9月1日現在の在籍児童生徒数

帰国児童生徒数	2	人
中国等帰国児童生徒数	0	人
日本語指導が必要な外国人児童生徒数	53	人

「帰国児童生徒」欄は、海外に1年以上在留した人数

2. 地域の特徴(帰国・外国人児童生徒の分布状況等の概要)

学校名	帰国・外国人児童生徒		日本国籍で日本語指導が必要な児童生徒
	在籍	要指導	
A小学校	7	4	6
B小学校	6	0	0
C小学校	28	22	21
D小学校	7	4	3
E小学校	23	12	0
F小学校	4	2	2
G中	1	1	0
H中	3	1	0
I中	12	6	0
J中	2	1	0
計	93	53	32

センター校

神栖町は茨城県の東南端に位置する人口約 49,700 人の町である。鹿島臨海工業地域を背景に、外国人に対しても比較的雇用がある。外国人登録数は現在 1,999 人（人口比 4.2 %）であり、帰国・外国人児童生徒は 93 名（平成 16 年 9 月現在）にのぼる。また、日本国籍であっても日本語指導を要する児童生徒が急増している。

このような状況に鑑み、平成 9 年度から町独自で「外国人児童生徒等日本語指導支援事業」を開始し、平成 11・12 年度「外国人子女教育受入推進地域」、平成 13・14 年度及び平成 15・16 年度「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」の指定を受け、C 小学校をセンター校とし、外国人児童生徒教育の充実及び教育の国際化に向けた実践的研究を進めている。

3. 帰国・外国人児童生徒の実態

（母語、在日期間、日本語能力の程度、学校生活の適応状況等の概要）

< 母語 >

- ・ 低学年で編入してきた外国人児童や幼児期から日本で過ごしている外国人児童は、母国語での表記ができない。
- ・ 日本語習得は早いですが、それと同時に母国語による会話力が後退して、父母とのコミュニケーションに支障をきたす外国人児童が見られる。母語の保持が危うくなってきている。
- ・ 母語保持や帰国後のことを考えて、帰宅後、ポルトガル語の塾に通わせている保護者が多い。

< 在日期間 >

- ・ 就労目的の保護者と共に来日している。
- ・ 在日期間は、3 ヶ月から 12 年と様々である。
- ・ やがて帰国をする家庭がほとんどであるが、その予定は不確定である。若干ではあるが永住を希望して帰化申請を出している家庭も見られる。
- ・ 日本生まれ、日本育ちの外国人児童が増えてきている。
- ・ 高学年になってから編入してくる外国人児童は減ってきた。

< 日本語能力の程度 >

- ・ 幼児期から日本で生活している外国人児童がほとんどなので、生活日本語はある程度身に付いてきているが、学習日本語の習得が難しく、個別指導（日本語・教科補充）を続けている児童がほとんどである。
- ・ 昨年末、全く話せない状態で高学年に編入してきた外国人児童は、単語のやりとりで意思の疎通が図れるようになってきたが、まだまだ日本語力が不足していて該当学年の学習が行えないでいる。
- ・ 知的なものを抱えているため、日本語がなかなか習得できないでいる外国人児童もいる。

< 学校生活の適応状況 >

- ・ 日本語指導教室や通常の学級での外国人児童受け入れの態勢は整ってきているため、外国人児童の学校生活への適応は早い。
- ・ 生活日本語は、だいたい 1 年～2 年で身に付けることができている。
- ・ 学習日本語の習得には時間がかかり、授業に適應することが困難な外国人児童もいる。

国際化推進地域における体制の整備

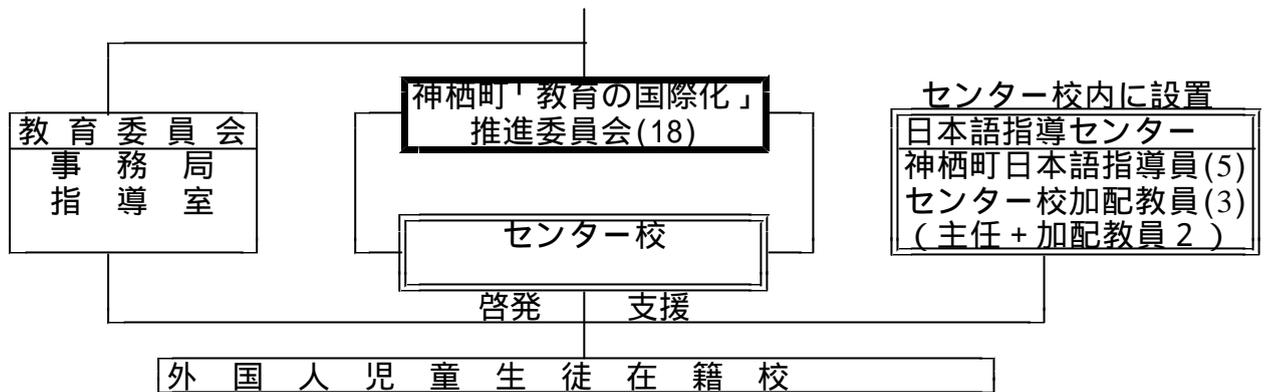
1. 教育国際化推進連絡協議会の概要

(1) 構成員及び各構成員の連絡協議会内における役割（図等を用い、わかりやすく記述すること）

神栖町教育委員会教育長

神栖町「教育の国際化」推進連絡協議会

教育委員会代表者(5) 小中学校長(10) 神栖町国際交流協会代表(3)
幼児の相談教室(3) 幼稚園長(3) 高等学校(1) 外国人等担当者(12)
日本語指導員(5) センター校研究主任(1) 計 43 名



(2) 協議会における活動内容と成果

神栖町「教育の国際化」推進連絡協議会（年間1～2回実施）

- ・帰国・外国人児童生徒教育受入推進及び「教育の国際化」推進に係る事業や諸活動について、学校及び関係機関等で共通理解を図り、本研究を全町的な取組とするための方策を探る。
- ・センター校等での取組について、授業公開や研究発表を通して啓発する。

（成果）

- ・「教育の国際化」についてのセンター校等での取組を各学校に啓発することができた。

「教育の国際化」推進委員会（月1回程度）

- ・連絡協議会の中核となる組織で、指導主事(1)、担当者(12)、日本語指導員(5)計18名からなる。指導主事及びセンター校の日本語指導センター主任を中心に進める。
- ・外国人児童生徒の指導上の諸問題について情報交換し、より適切な支援体制づくりに努める。
- ・加配教員（センター校）、日本語指導員（神栖町）等の適切な派遣計画の作成
- ・指導技術の研鑽 講師等を招いて日本語指導法について研修する。
- ・自校開発教材等の共有化
- ・授業研究（日本語指導）及び研究協議

（成果）

- ・各学校間の情報交換を密にすると共に、共通理解を図ることができた。
- ・派遣計画の見直しを随時行うことにより、派遣指導の充実が図れた。
- ・授業研究等の研修を計画的に研修を進め、加配教員や日本語指導員の指導力の向上が見られた。

2. 国際化推進センター校の概要

学校名：		担当教員氏名：			
TEL：		FAX：			
住所：					
HP：					
	帰国児童生徒		1 人		
	外国人児童生徒	ポルトガル語	18人	その他	人
		スペイン語	5人		人
		タイ語	4人		人
		中国語	2人		人

3. 国際化推進センター校での指導内容等（日本語能力別に分類して記入）

日本語能力	指導を開始し てからの期間	年齢	指導内容
日常会話 以外（教 科学習等） も可能	2年 9ヶ月	9才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法 ・3年生で学習する漢字 ・3年生で学習する国語 ・3年生で学習する算数 ・作文の練習
	2年 11ヶ月	9才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法 ・3年生で学習する漢字 ・3年生で学習する国語 ・3年生で学習する算数 ・作文の練習
	3年 9ヶ月	9才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法 ・2, 3年生で学習する漢字 ・4年生で学習する国語 ・4年生で学習する算数 ・作文の練習
	1年 11ヶ月	11才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法 ・5年生で学習する漢字 ・5年生で学習する国語 ・5年生で学習する算数 ・4, 5年生までの計算問題 ・作文の練習
	5年 9ヶ月	12才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法 ・5, 6年生で学習する漢字 ・6年生で学習する国語 ・6年生で学習する算数 ・6年生で学習する社会 ・作文の練習
日常会話 が可能	1年 11ヶ月	7才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話, 文法 ・1年生で学習する漢字 ・1年生で学習する国語
		7才	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学習する算数 ・音読, 作文の練習
	2年 11ヶ月	9才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話, 文法 ・3年生で学習する漢字 ・3年生で学習する国語 ・3年生で学習する算数 ・音読, 作文の練習 ・4年生の漢字
	5年 9ヶ月	11才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話, 文法 ・2, 3年生で学習する漢字 ・5年生で学習する算数 ・5年生で学習する社会, 理科 ・2年生の読み物教材 ・音読, 作文の練習 ・4年生の漢字
	5年 11ヶ月	12才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話, 文法 ・6年生で学習する漢字 ・6年生で学習する算数 ・英語 ・数学（正負の数, 1次方程式）
3年 9ヶ月	12才	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話, 文法 ・4, 5年生で学習する漢字 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生で学習する算数 ・ 3年生の読み物教材の読解 ・ 日本地理
日常会話 も困難	9ヶ月	7才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ ひらがな（清音） ・ 身の回りのものの名前 ・ 10までの数の数え方 ・ 10までのたし算，ひき算 ・ くり上がりのあるたし算 ・ くり下がりのあるひき算 ・ あいさつ，自己紹介 ・ 適応指導（はさみやのりの使い方等）
	4ヶ月	7才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ ひらがな（清音） ・ 身の回りのものの名前 ・ 10までのたし算，ひき算 ・ くり上がりのあるたし算 ・ くり下がりのあるひき算 ・ あいさつ，自己紹介 ・ 音読の練習
	1年 11ヶ月	8才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ 日本語会話，文法 ・ 2年生で学習する漢字 ・ 2年生で学習する国語 ・ 2年生で学習する算数 ・ 音読，作文の練習
	1年 8ヶ月	8才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語会話，文法 ・ 2年生で学習する漢字 ・ 2年生で学習する国語 ・ 2年生で学習する算数 ・ 音読，作文の練習
		8才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語会話，文法 ・ ひらがな，カタカナ ・ 1年生で学習する漢字 ・ かけ算
	4ヶ月	10才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ 日本語会話，文法 ・ 身の回りのものの名前 ・ ひらがな，カタカナ ・ 1，2年生で学習する漢字 ・ 4年生までに学習する計算 ・ 1，2年生の算数の文章問題 ・ 1年生の読み物教材の読解
	9ヶ月	11才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ 日本語会話，文法 ・ ひらがな ・ たし算，ひき算のひっ算 ・ かけ算 ・ 音読の練習
	3ヶ月	11才	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活日本語 ・ 日本語会話，文法 ・ 身の回りのものの名前 ・ ひらがな，カタカナ ・ 5年生までに学習する計算 ・ 音読 ・ 1年生の読み物教材の読解

平成16年度の具体的な取り組みとその成果について

1. 研究趣旨を達成するために実施した活動及びその成果

推進地域として（教育委員会を中心にして）の取り組みとその成果

【推進地域】

- ア 充実した指導員派遣体制
- イ 早期からの外国人児童生徒の把握と不就学児童生徒への対応
- ウ 外国人児童生徒も視野に入れた就学指導体制
- エ 「教育の国際化」推進委員会等での日本語指導に係る研修の充実
- オ 教育の国際化推進センター校及び日本語指導センターへの支援
- カ 幼稚園，高等学校との連携

【日本語指導センター】

- ア 自作教材の充実（かんじマスター 等），作成（ひらがなノート，読解教材）
- イ 日本語指導・支援体制の充実と効率化
- ウ 教室環境の充実（九九フロアー，こたつ，コンピュータ 等）
- エ センター校における外国人子女教育関係資料の収集，整理と開発（情報センターとしての機能）
- オ 就学児童の日本語力検査（絵画語彙検査）の実施
- カ 翻訳文書の充実
- キ 補助簿の作成
日本語指導についての指導の記録として補助簿を作成した。日本語指導開始時の状態や，日本語指導に関する年間授業時数，指導目標や内容，結果などを明記するようにしている。
- ク 教育課程実施報告
この書類を作成することで，児童にどんな指導を何時間行うのかを明確にした。
- ケ 受入の際の保護者向け文書の見直し
- コ 研修による指導力の向上
信任加配教員の短期研修（センター校にて1週間程度）
日本語指導員の研修（毎週）

センター校での取り組みとその成果

センター校では「学校の国際化」「共に生きる教育」「個に応じた教育」の3つの視点から，研究を進めた。

「学校の国際化」の視点から

「学校の国際化」を進めるために，「外国人児童等が安心して学べる学校・学級づくり」はどうあるべきか，「学習における国際化」と「学校生活における国際化」を中心に研究を進めた。

学習における国際化（授業における外国人児童等への支援と生かし方）

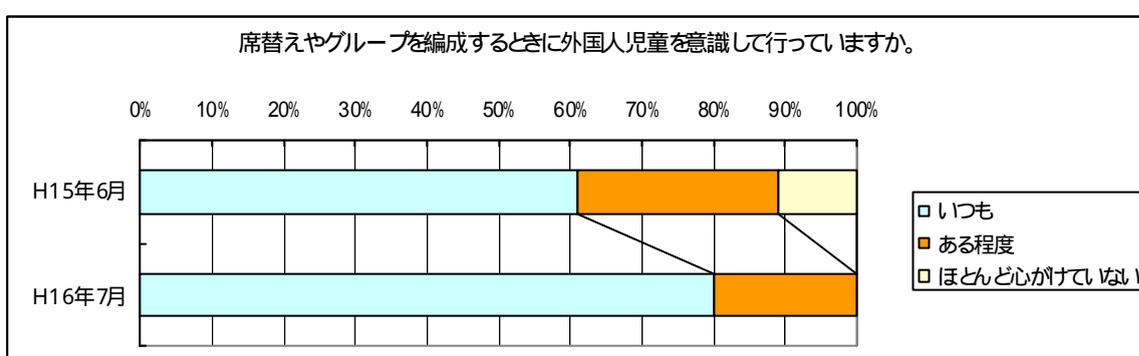
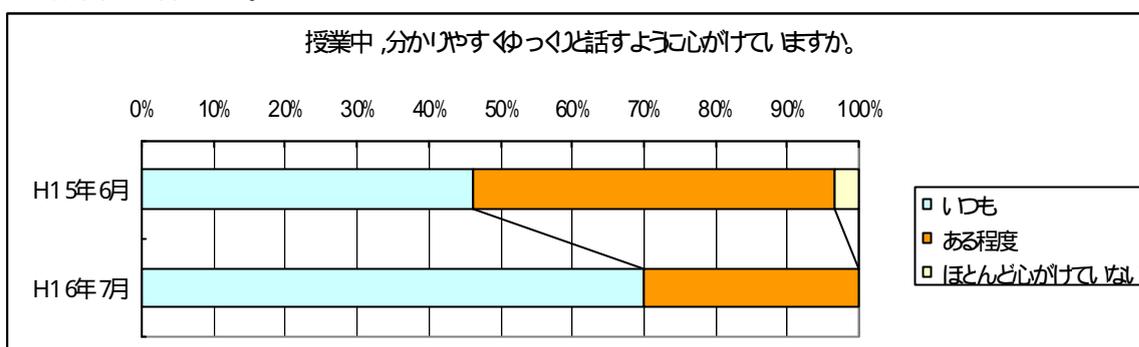
- ア 「『分かる授業』実現のために」の作成
教師自身が意識して実践すべきことを8項目にまとめ，毎日の指導に生かした。

「分かる授業」の実現のために

児童の実態に応じた，授業や教材開発に取り組む。
基礎・基本をふまえた課題を設定する。
具体物や視聴覚教材を積極的に用いる。
観察や実験などの体験的な学習や作業的な学習を取り入れる。
説明や講話等のとき，ゆっくりと分かりやすく話す。
板書，配布物，掲示物等，学級の実態に合わせ，ふりがなを付ける。
自己評価カード等を用いて，学習を振り返らせる。
交流学級における授業において，特別支援教室との連携を密にする。

その結果，授業中，分かりやすくゆっくりと話すように心がけている教師や，分かりやすい授業を行うために，具体物やカードなどを用意している教師が増えた。

また，席替えやグループ編成をするときに，外国人児童等を意識して行う教師が増えた。



イ 「授業における外国人児童等への支援と生かし方」の作成

授業における外国人児童等への支援と生かし方をまとめ、指導に生かした。今までの指導案の中から教科ごとに授業における外国人児童等への支援と生かし方についてまとめ、誰でも簡単に「国際化」を意識した指導ができるようにした。

ウ 学び方の手順の作成

算数や国語の学習において、「学び方の手順」「指導過程と板書構成」「ノート」「ノートの使い方」についてまとめ、「分かる授業」作りに役立てた。「ハンドサイン」についても確認し、授業に役立てた。

エ 「教材リスト」の作成

教材リストを作成し、分かる授業作りに使用した教材を整理した。単元名、教材、教材を使用する場面、使用方法を明記し、ファイルにまとめた。実際の教材は、学年ごとに分けて資料室に保管した。教材には、写真を一緒に添付し授業に対するイメージを膨らませやすくした。

授業研究の実施

「教育の国際化」の視点に基づいた「誰にでも分かる授業」、外国人児童等が「安心して学べる支援のしかた」を研究するために、全員の教師が授業研究を行った。

「誰にでも分かるやさしい授業」を行うためには、活動や話し合いの中で、教師自身が配慮したり、児童同士が助け合ったりしながら、誰もが安心して学べる授業を心がけることが必要である。全員の教師が研究授業を行えるように計画を立て実施した。

学校生活における国際化

授業以外の場面でも、教師自身が配慮して外国人児童等を含めて誰もが安心して生活できる環境を作るために、学校生活の国際化を進めた。

ア いろいろな言葉でのあいさつの紹介

月ごとにいろいろな国の言葉であいさつをし、外国人児童にその月のあいさつを紹介してもらった。日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・タイ語・ドイツ語などいろいろな国の言葉であいさつが紹介された。

イ 「なかよしポスト」の設置

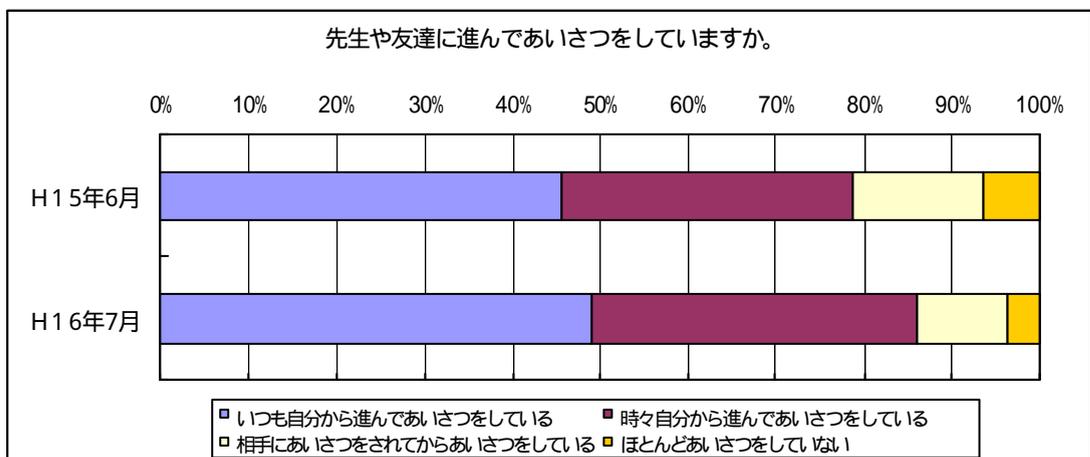
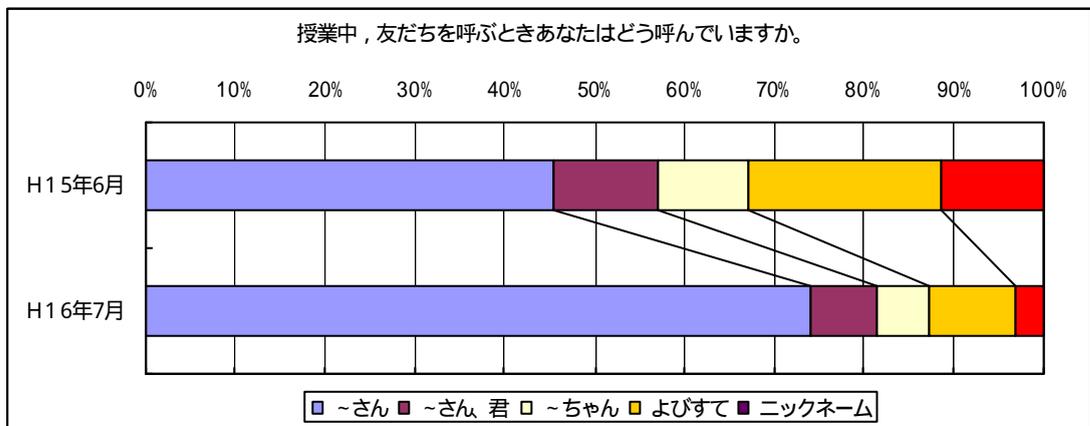
各学級や日本語指導教室で「なかよしポスト」を設置し、児童の良いところに目を向ける機会を多くした。

児童が友達の良いところを意識するように「なかよしポスト」を全学年に設置した。「なかよしポスト」の中の用紙は、低・中・高学年ごとに少しずつ違うが、どれも、友達の良いところに目を向け認めることによって、相手を尊重する気持ちを養うことをねらいとしている。

ウ 「みんな友だち」の掲示

児童一人一人が友達を尊重し、大切に、助け合う気持ちを育てるために、「みんな友だち」という約束を作り、各教室に掲示した。また、「みんな友だち」の内容がより定着するために、「みんな友だち」ふりかえりカードを作成した。児童自身が、毎月自己評価をし、自分の生活を振り返るようにした。また、学期の終わりには、その学期にがんばったことをまとめ、次学期への意欲を高めるようにした。

児童は、友達の呼び方やあいさつなど意識して行うことができるようになった。



エ 「教師の意識調査」「児童のアンケート調査」の実施

年に2回、「教師の意識調査」「児童のアンケート調査」を実施し、研究を進めていく上での参考にした。

誰にでもやさしい環境作り

誰にでもやさしい環境作りの一つとして、各教室に「わくわくコーナー」を設置した。「わくわくコーナー」には、「今月のあいさつ」や「みんな友だち新聞」「かけはし」「わくわく通信」が掲示されている。

児童は、この掲示物を見ながら毎朝いろいろな国の言葉であいさつをしたり、「みんな友だち新聞」で紹介されている外国人児童の記事を読んだりすることによって、今まで以上に外国人児童に親しみを持つことができた。

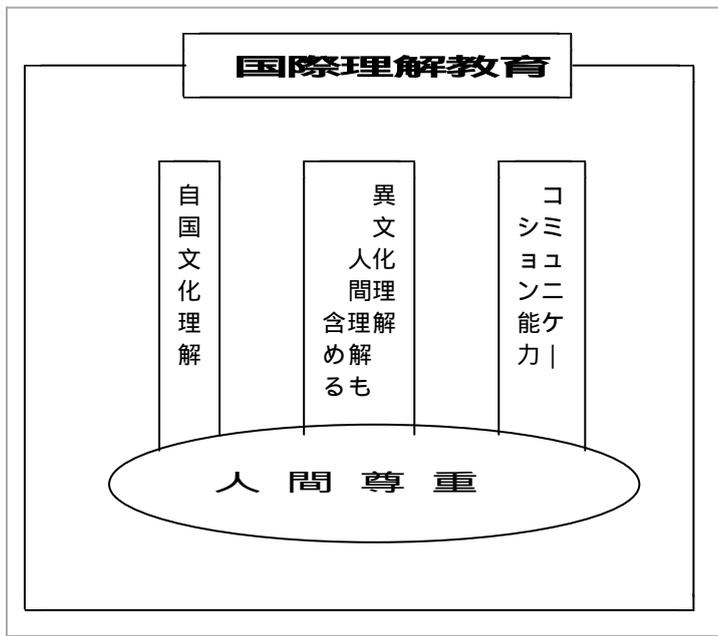
ブラジルの児童が多い学級などでは独自の工夫を凝らし、日常生活に使うポルトガル語を掲示して、外国人児童と日本人児童の交流を図っていた。子どもを迎えに来る外国人の保護者ともあいさつを交わすようになり、外国人保護者も日本の児童との会話を楽しむようになった。

交換授業の実施

交換授業を全員の教師が実施した。通常の学級の担任にとっては、日本語指導や特別支援教室での指導を経験し、外国人児童や特別支援教室在籍児童の様子や実態をより深く理解するために、日本語指導教室担当者や特別支援教室担当者にとっては、日本語指導の技術や個別指導の技術を生かし、誰にでも分かる授業を行うために実施した。

「共に生きる教育」の視点から

日本人児童と外国人児童、考え方の違う日本人児童同士が「共に生きる」ために、「相互啓発を通じた国際理解教育」について総合的な時間や特別活動、地域と連携した活動などを中心に研究を進めた。



本校では、国際理解教育の柱を「自国文化理解」「異文化理解」「コミュニケーション能力」の3つとした。それらの基盤となるのが「人間尊重の精神」である。

ここでいう「異文化理解」とは、異国文化理解はもちろん、同じ国の人同士の中に存在する考え方の違いも認め合う心を育てることと捉えた。

生活科や総合的な学習の中での国際理解教育

自国文化理解の視点、異国文化理解の視点から、生活科や総合的な学習の時間を中心にして、国際理解教育を行った。

また、英語に触れる活動として、1～6年生まで、ALTの先生と一緒に学習した。ALTの先生の母国の話を聞いたり、簡単なゲームをしたりしながら楽しく英語を学ぶことができた。

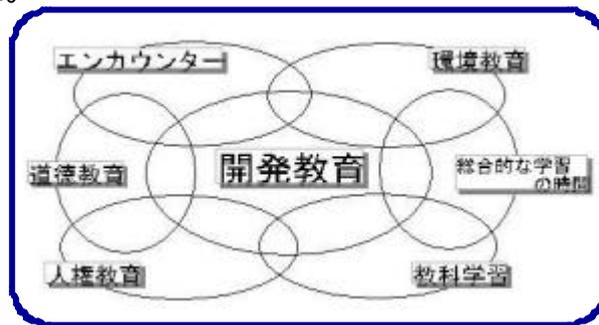
開発教育の実践

ア 開発教育年間指導計画の作成

開発教育とは、「よりよい未来を協力して切り開いていく（＝開発）ために、子どもたちが地球市民としての考え方や態度を身につけられるようにする教育」であり、「公正公平な社会を創るための教育」である。開発教育を行うことによって、一人一人を大切にすることやみんなで協力することの良さに気づき、世界に目を向け自分にできることを考えられる児童の育成を目指している。

開発教育は、「知り、考え、行動する」ことを目指し、「参加」を一つの目標とする教育活動のため、「参加型学習」と呼ばれる学習方法が活用されることが多い。「参加型学習」の中で教室でも行いやすいものとして、ディベート、ランキング、フォトランゲージ、シュミレーション、ロールプレイ、プランニングなどの手法がある。

学年ごとにできる開発教育を選び、略案や資料等を載せて、年間指導計画を作成した。



夏休みに開発教育についての職員研修を行ったり、開発教育の授業研究を行ったりした。

特別活動の充実

ア 「教育の国際化」についての標語の募集・掲示

4年前、国際理解教育についてのスローガンと歌を募集した。全校児童に呼びかけたところ、多数の応募があった。スローガンは、4年児童が考えた『友だちになりたいな 世界中の人たちと』が選ばれ、校舎の前面に掲示した。歌は、2年児童の作った歌詞に6年児童が曲をつけた。この歌は、「みんな友だち集会」などで歌っている。

今年度も、友達に関する標語を募集し、良い作品は玄関や階段の踊り場に掲示した。毎年、全校児童で標語を考えることで、相手の立場を考え、友達にやさしくすることの大切さを意識づけるようにしている。

イ 「みんな友だち集会」の実施

学期に一度「みんな友だち集会」（全校集会）を行っている。代表委員会で計画し、国際委員会や学年の発表を中心に行った。

第10回「みんな友だち集会」では、国際委員会が寸劇をしながら、世界の民族衣装と挨拶について紹介した。学年の発表では、2年生が「みんなで1, 2, 3」の歌を歌った。いろいろな国の言葉で「1, 2, 3」と数唱する歌だった。

ゲストを招きインドネシアの学校や生活の様子についてお話を伺った。また、インドネシアの踊りを披露してもらった。

ウ 国際委員会の活動

外国人児童の紹介（ビデオ放送「みんなともだち」）

本校にいる外国人児童やわくわくワールドについて、昼の校内放送を利用し、国際委員会の児童が紹介した。母国の学校の様子や遊び、食事、国旗などを中心にVTRに納め、給食の時間に放映した。テレビに映るということで自分の番を楽しみにしている外国人児童もいた。中には母国語で歌ったり、自分の国の遊びを紹介したりする児童もいた。時には、保護者を

呼んでインタビューをした。

「みんな友だち集会」での発表
 「みんな友だち集会」の中で、国際委員会は日本やいろいろな国について調べ、発表した。

第1回	世界のあいさつ
第2回	世界のじゃんけん
第3回	×クイズ(いろいろな国について)
第4回	世界のあいさつと民族衣装
第5回	ポルトガル語の劇, ×クイズ
第6回	日本について(音楽, 国旗, 踊り等)
第7回	世界の写真の撮り方
第8回	英語の劇(算数の時間), ×クイズ
第9回	日本の遊び, ×クイズ
第10回	世界のあいさつと民族衣装
第11回	世界のじゃんけん
第12回	英語の劇(体の名前), ×クイズ
第13回	世界の数の数え方

「みんな友だち新聞」の発行
 昼の校内放送で紹介した国のことや「みんな友だち集会」で行われたことについて、新聞にまとめ、発行した。放送や集会であったことや自分たちで調べたことをもとに新聞を作り、全児童に配布した。1年生でも読めるように、漢字には全てふりがなをふり、なるべく写真やイラストを多く取り入れるようにした。

エ 縦割り班活動

1年生から6年生までの異なる年齢の児童が一つのグループを作る縦割り班活動を実施した。縦割り遊びや縦割り愛校作業、縦割り和室遊び縦割り給食などを実施した。高学年と低学年と一緒に遊び、どの班もみんな協力しながら行うことができた。



オ インターナショナルクラブの活動

A L Tの先生と担当の教師と一緒にクラブを行った。自分や家族の紹介を英語でしたり、英語を使ってゲームをしたり、楽しみながら英語に触れることができた。

ハロウィーンのリースやクリスマスカードなど、自分の作品を作ったり、一緒に楽器を演奏したりしながら、英語に親しむことができた。

地域と連携した活動

ア 運動会での全校踊りの実施

運動会において、「全校ダンス」をプログラムの中に取り入れ、自国文化理解としての「神栖町民音頭」と、異文化理解としての「マカレナ」を踊った。日本人保護者や外国人保護者、地域のお年寄りの方々にも参加してもらい、みんなで楽しく踊ることができた。

イ 国際理解啓発のための便り「かけはし」の発行

「教育の国際化」を進め地域と共に育つ学校を目指して、国際理解啓発のための便り「かけはし」を発行した。内容は、本校で考えている「教育の国際化」の紹介や、生活科や総合的な学習の時間に行われている国際理解教育の活動内容の紹介、日本語指導教室「わくわくワールド」についてである。この「かけはし」を、「教育の国際化」の研究を進めている本校と保護者との思いをつなぐものにしたいと考えている。

ウ 人材バンクの活用

生活科の学習や総合的な学習の時間、国際理解教育やいろいろな学習に協力してくれる保護者や地域の人を中心に「軽野東小人材バンク」を作り、活用している。授業や全校集会では、主に人材バンクからゲストティーチャーを依頼した。

エ オーストラリアのランコーン小学校との交流

オーストラリアのランコーン小学校と本校で絵やカードを交換し交流を行った。平成15年度はクリスマスに合わせて、クリスマスカードやクリスマスツリーのポスターを送り、ランコーン小学校から返事もらった。

オ ボランティアの会との連携

平成13年度に、保護者による「ボランティアの会」が発足した。この会は、保護者を中心としたものであり、学校行事やPTA行事の手伝い、学校環境の美化などを中心に活動している。

昨年度は、休日に集まって花壇の柵を作成したり、学校行事の「砂の造形・地引き網大会」を手伝ったりした。また、PTA主催の東小ふれあいフェスティバルでは、豚汁を作って協力した。

今年度は、花壇の柵のペンキ塗りやいも畑の作成などの他に、12月に外国人保護者とのクリスマスパーティーを行った。これは、いろいろな国の保護者との交流を図る良い機会になると思う。

「個に応じた教育」の視点から

帰国・外国人児童や特殊学級在籍児童等への教科補充学習等を充実させ、一人一人にやさしく、分かりやすい指導・支援はどうあるべきか、「学習支援」と「適応指導」を中心に研究を進めた。

学習支援の充実

児童の実態を把握し、一人一人に応じた支援を充実させるために「個票」や「短期目標」を作成している。

日本語・適応指導の充実

【個別指導 - 日本語】

児童一人一人に分かりやすい指導を心がけている。児童の実態をよく把握し、充実した個別指導が行えるよう授業研究をしたり、担当者同士で話し合ったりして研修を重ねた。

- ・ 短い言葉でゆっくり指示をする。
- ・ 優しくかみくだいて話すようにする。
- ・ 絵や写真，具体物など，視覚的な手がかりを用意するようにする。
- ・ できる（分かる）ことから少しずつレベルアップさせていく。（small step）
- ・ 児童が教室で活躍する場面を作れるよう，教室での進度を意識し，先行学習を心がける。

【個別指導 - 教科補充（国語・算数）】

指導内容を精選して日本語の表現に対する負担の軽減と指導時間の短縮を図った。また，具体物などを用いて分かりやすく丁寧な授業を心がけ，学習内容の理解と学習への適応を図った。

- ・ 具体物を使って説明を分かりやすくする。
- ・ 作業（体験）を取り入れ，理解を確かなものにできるようにする。
- ・ 基本的な内容をしっかりと理解できるよう，指導内容の精選を図る。

「短期目標」をもとに計画的に指導を進めた。教材は，児童に合ったものを選び，児童が分かる喜びを味わうことができるように心がけた。

その結果，児童は自分のペースで自分にあった学習をすることができ，満足感と充実感を味わうことができた。また，個別で学習した内容を担任に連絡し，教室でも外国人児童等を生かした指導を進めることにより，児童は学級への所属感を得ることができた。

【小集団での指導】

指導時数の確保のために2～3名の小集団を組んでの指導も行っている。

この時間は，児童が友達と一緒に学習できる楽しさを味わうことのできる時間になっている。また，友達同士助け合う姿を見ることもでき，小集団ならではの学習効果をあげている。

【JSLカリキュラムの開発】JSL = Japanese as a Second Language（第二言語としての日本語）

週1時間，3年生児童を対象にして教科型JSLカリキュラムに取り組んだ。通常の学級での学習の流れを意識し，体験活動（体験）を取り入れ，友達と一緒に調べたり（探求），自分の考えをまとめて発表したり（発信），他の先生や友達との関わりを持ったりする中で，必要な知識や日本語の会話を習得できる時間となった。

< JSLカリキュラムの1時間の流れ >

5月に行った「虫を探そう（春の虫）」の授業から。

教室内に色画用紙を切り抜いて作った昆虫を隠しておき，虫探しを行った。また，昆虫の体の一部分を拡大した写真から，何の昆虫かを当てる「虫クイズ」を行い，春に見られる昆虫に対する興味や関心を高め，調べ学習へと導いた。



< 床に隠した昆虫 >

< 虫クイズに挑戦 > 写真略

< 体験の具体化（体験） >

具体物や直接体験から学習課題をつかませる

子どもたちの体験を日本語で表現

単元 = 児童の実態に合わせて設定する

< 虫について調べる >

一人一匹ずつ調べたい虫を決め調べ学習を始めた。人に聞いたり，本で調べたりして昆虫に対する理解を深め，ワークシートにまとめた。

<探求の体系化（探求）>

教師や友達との議論や調べ学習を通して学習を深める

学習の過程や結果を日本語でまとめる

その活動活動に必要な日本語の表現を使用する



AU = ActivityUnit
(活動の単位)

ワークシートにまとめたことを発表した。友達の発表に対する質問や意見，感想等を言い合った。また，学習内容の大切な部分は教師が黒板にまとめ，板書したものをノートに書き移す練習もした。

児童がインターネットの検索になれていなかったので，次の時間には，コンピュータ室でパソコンを使った調べ方の練習をした。

<調べたことの発表会>
写真略

<成果の発信（発信）>

自分の日本語で伝える

学習したことを他の子どもたちに
わかりやすく日本語で表現

体験・探求・発信の活動あったAUを，AU一覧の中から選んで使う。

外国人児童たちは，こうした時間を積み重ねることで授業の学習の流れを理解し，自分なりに考えをまとめたり，自分なりの言葉で発表したりすることができるようになってきた。積極性が芽生え，教室でも発表する機会が増えてきている。この授業での経験が，これからも教室での授業の中で生かされればよいと考えている。

【母親参加型指導】

外国人児童と母親と一緒に指導することで，学校での指導の様子を知ってもらおうと共に，母親にも日本語を学んでもらう場を提供したいと考えて取り組んでいる。

- ・母親が日本語を学ぶ場や機会を作る。
- ・母親に，学習内容，学習用語を学ばせる。
- ・学習の仕方を学んでもらうことで，児童生徒の家庭学習に役立てられるようにする。
- ・母親がTT（通訳）として授業に参加することで，母子が安心して学びあえる環境を作る。

母親にとっては「学習日本語」（授業で使われている学習用語）は言葉自体が独特なため，用語を理解するのが難しかったため，指導内容を精選して日本語の表現に対する負担の軽減と学習した内容の理解を確実なものにし，指導時間の短縮を図るようにした。また，具体物などを用いて分かりやすく丁寧な授業を心がけることで，学習内容の理解と学習への適応を図った。

- ・言葉ではなく具体物を使って説明を分かりやすくする。
- ・作業（体験）を取り入れ，理解を確かなものにできるようにする。
- ・基本的な内容をしっかりと理解できるよう，指導内容の精選を図る。

その結果，母親も児童も短時間で効率よく学習でき，理解を深めることができた。また，母親に日本語を学ぶ機会を作ったことで，家庭でも日本語で会話する機会が増えてきたという喜びの声を聞くことができた。

【母語を生かした指導】

母語がしっかりと身に付いていて，学年相当の学力が身に付いている児童には，神栖町の日本語指導員による母語を生かした指導を行っている。

日本語の意味の理解が難しい言葉には，母語での意味の補足や言葉の使い方の例なども交えて指導している。また，母語だけでなく日本語でも説明が加えられ，日本語と母語の両方の理解が深められるようにしている。

- ・意味の分からない言葉を母語で補う。
- ・言葉の使い方を母語で説明すると共に，日本語でも例を示す。
- ・指導した内容を児童にも母語で話させ，理解しているか確かめる。

日本語の説明だけでは理解が難しい言葉や学習内容も，母語の説明を加えることでしっかりと理解することができた。また，日本語と母語，両方の言語で理解を深めることができ大変有効な指導であった。

小集団活動の充実

週1時間，1年生から3年生までの児童が集まる小集団活動の時間を設けている。小集団活動の時間は楽しい体験活動も多く，同じ教室の友達が集まるので，児童にとって楽しく過ごせる間になっている。また，外国人児童にとっては，母語で話せる仲間が集まるのでリラックスできる時間にもなっている。

TT支援の充実（日本語指導員による通訳のTT支援）

母国語や学力がしっかりと身に付いている児童には，担任が必要とする様々な教科の中で日本語指導員が母国語で通訳を行っている。

外国人保護者会の実施

- ・様々な国の人たちとの親睦を深め，人間関係を広げる
- ・日本の学校教育に対する理解を深め，協力関係を築く。
- ・教師と保護者のコミュニケーションを深める。
- ・困った時に助け合える，保護者間のネットワーク作りの場を設ける。

保護者同士の交流を深められるよう，話し合い中心の懇談会の形式から，それぞれの国の料理を持ち寄ってのパーティー形式とした。また，今回は外国人の保護者の方たちをより理解してもらい，地域でも受け入れてもらえるようにと考え，新たに本校のPTA役員，地区委員にも参加してもらった。100人近い参加者があり，盛大な会を開くことができた。

各国のおいしい料理を食べながら，和やかな雰囲気の中で交流を深めることができた。

幼稚園との連携

就学予定の園児の保護者に小学校を理解してもらい，安心して入学してもらえるよう「学校説明会」を行った。学校での取り組みについてはビデオや写真を多く用意した。また，母語の解説の付いた「Viva 日本の小学校」という小

学校の紹介ビデオを見てもらったりして理解を促した。
説明会の後には、小学校の保護者との交流会も行った。

学校生活における国際化について
授業以外の場面でも、教師自身が配慮して外国人児童等を含めて誰もが安心して生活できる環境を作りを進めた。

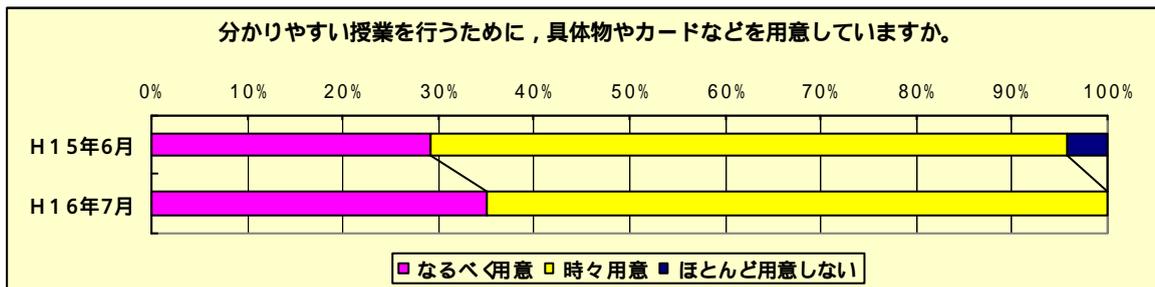
- ア 「心をつたえよう」コーナーの設置
- イ 特別教室の案内板の設置
- ウ 外国語に親しむ掲示物の作成
- エ 「わたしたちの国」のコーナーの設置
- オ 日本を感じる掲示物の作成
- カ 研究のあゆみの掲示

<成果>

教師の意識の向上

外国人児童や特別な支援を要する日本人児童にとって「分かりやすく」「やさしい」指導、つまり、児童一人一人にとって「やさしい」教育を目指し、授業や学校生活において実践してきた。どういふことに気をつけて指導をすると分かりやすくなるか、どういふ支援をするとその子なりに理解できるか等、意識する教師が増えてきた。

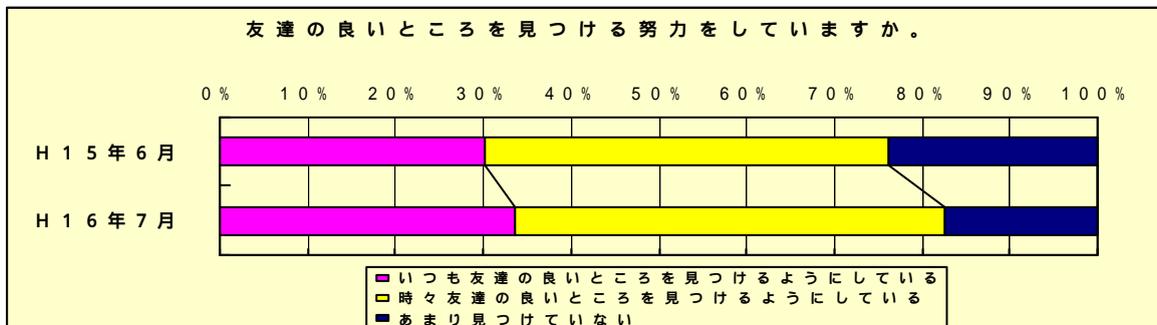
「分かりやすい授業を行うために、具体物やカードなどを用意していますか」という質問に対して、「なるべく用意している」と答えている教師が全体の29%から35%に増えた。また、時々用意していると答えている教師まで含めると、平成16年7月には全職員が何らかの用意をして分かりやすい授業を行う努力をするようになった。



友達の良いところを見つける努力をしている児童の増加

外国人児童や全ての日本人児童にとって「安心して学べる」環境を作るために努力した結果、友達のよいところを見つけようとする児童が増えた。

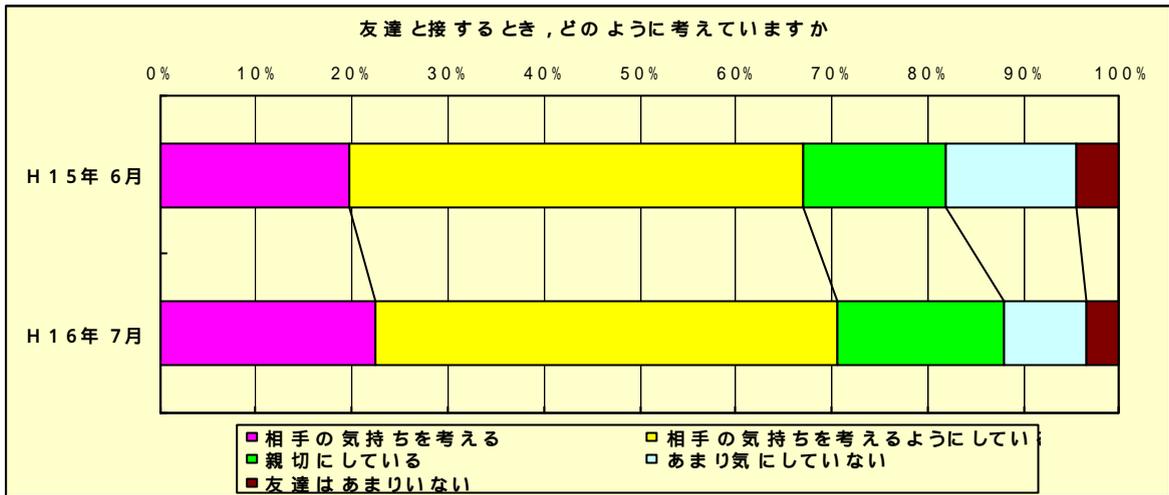
「友達の良いところを見つける努力をしていますか」という質問に対して、「いつも友達の良いところを見つけるようにしている」と答えた児童が増えた。



相手の気持ちを考えて行動する児童の増加

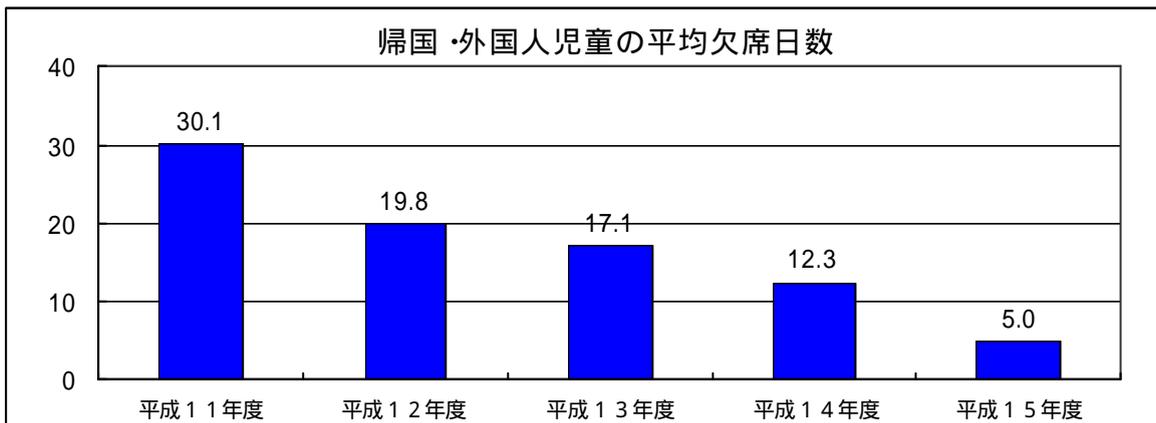
国際理解教育の基盤は人間尊重の精神である。国や育った環境、考え方が違ってても、相手の気持ちを考えながら行動していこうとする児童が増えた。

「友達と接するとき、どのように考えていますか」という質問に対して、「相手の気持ちを考える」と答えた児童が少しずつだが増えてきた。



外国人児童や外国人保護者の意識の向上

外国人保護者の学校教育に対する意識も大分変わり、授業参観への出席をはじめ、学校行事等へも積極的に参加してくれる保護者が増えた。また、「教育の国際化」に取り組み、外国人児童への様々な配慮がされるようになってから、一人あたりの平均欠席日数が減少の一途をたどっている。平成13年度は17日、平成15年度は、5日になった。



2 本事業担当教員の国際化推進地域内の教育体制における役割及び活動状況
日本語指導センター校加配教員

区分	氏名	支援業務等の分担
加配教員		自校の外国人児童への日本語指導及び適応指導を行うと共に、日本語指導センターの主任として日本語指導に係る次の業務を分担する。 ・自校及び派遣校の児童生徒の指導計画等の吟味 ・教育委員会及び各校外国人担当者等との連絡調整 ・神栖町日本語指導員への指導及び支援
		外国人児童生徒が在籍している学校（日本語指導が必要な児童生徒）に出向いて日本語指導や相談活動を行う。 派遣は各学校午前中を原則とし、午後は自校の外国人児童の指導にあたる。

神栖町日本語指導員

	週2日勤務（午前4日） ポルトガル語による支援	教育委員会及び日本語指導セ
--	----------------------------	---------------

神栖町 日本語指導員		週2日勤務（午前4日） タガログ語による支援	センターの指導監督の下，各校外国人児童生徒等の支援を行う。
		週2日勤務（午前4日） スペイン語による支援	
		週2日勤務（午前4日） 週4日勤務（3日＋午前2日） 教科補充を中心とした支援	

3. 本事業担当教員以外（民間企業、地域の団体、人材等）の活用状況

(1) 神栖町日本語指導員

加配教員及び日本語指導員の派遣
次の派遣計画に基づいて派遣するが，時間外の家訪問や保護者との教育相談等にも応じている。
また，毎月派遣状況の見直しを行い，転出・退学や途中からの編入児童生徒にすぐに対応できるようにしている。

【派遣計画表】 印はセンター校加配教員，その他は神栖町日本語指導員 (一部)

曜	指導者	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時
月			9:25 10:10	10:30 11:15	11:25 12:10	
			9:35 10:20	10:30 11:15	11:20 12:05	K幼稚園
			9:25 10:15	10:30 11:15	11:20 12:05	
		8:30 9:20	9:30 10:20	10:25 11:10	11:30 12:15	13:55 14:40
		8:30 9:15	9:35 10:20	10:30 11:15	11:20 12:05	13:55 14:40
火			9:25 10:10	10:30 11:15	11:20 12:05	
				10:30 11:15	11:20 12:05	
		8:35 9:20	9:25 10:10		11:20 12:05	
			9:35 10:20	10:30 11:15	11:20 12:05	13:55 14:40
		8:45 9:30	9:25 10:10	10:30 11:15	11:35 12:25	13:55 14:40
		8:45 9:30	9:25 10:10	10:30 11:15	11:30 12:20	

(2) その他

- ア A L T との英語活動
- イ 「みんな友だち集会」(全校集会)でのゲストティチャー
- ウ 総合的な学習の時間でのゲストティーチャー
- エ オーストラリアのランコーン小学校との交流

4. 3で活用した企業、団体、人材等の概要

- ・神栖町日本語指導員（神栖町の嘱託職員）
- ・神栖町国際交流協会
- ・神栖町シルバー人材センター
- ・センター校人材バンク
- ・オーストラリアのランコーン小学校

5. その他特筆すべき平成16年度の取組及びその成果と課題

研究紀要参照

6. 平成16年度の成果と課題に基づく今後の課題

「教育の国際化」の更なる充実
教師一人一人の意識を向上させたり，相手の気持ちを考えて行動する児童が増えるように指導したりしながら，外国人児童や全ての日本人児童にとって「安心して学べる」環境を更に充実させていきたい。
また，外国人児童がいたおかげでできたこと，いろいろな考え方の違いがあったからこそできたことを，これからも大切にしていきたい。
J S L カリキュラムの開発と実践

昨年度と今年度センター校で開発してきた教材を他校で活用してもらい、検証していくことでより良い教材にしていくと共に、センター校においてはトピック型と強化指向型のJ S Lカリキュラムの新たな単元の開発を行う。